功績明細書

海軍特務少尉正八位勲七等(旭)金光九三郎

年月日	功績等級	所見	所轄長職官氏名
昭和一七年四月九日	殊勲乙		第五十一警備隊司令海軍大佐千知波長次
昭和一七年八月十七日	殊勲乙		第六十二警備隊司令海軍大佐千知波長次

年月日	所屬	職名部署	奏功官等	戰歷	功績査定標準	記事
昭和一六年九月一日	第五十一警備隊	小隊長	兵曹長	入隊司令千知波大佐の部下に屬す	勲功丙	自九月一日至九月三十日期間鎮海要港部附屬編入十月一日より第四艦隊第六根據地隊に編入
同年自九月一日至一〇月一三日	同右	同右	同右	對事變內地待機勤務		
同年自一〇月一三日至一〇月三〇日	同右	同右	同右	輸送船霧島丸に乘船佐世保發內南洋マーシャル群島ミエジ着		
同年自一〇月三〇日至一一月三〇日	同右	同右	同右	內南洋マーシャル群島對空見張航空基地警備施設上物資に四支部保管の爆彈等警戒任務對事變待機勤務に從事		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

昭和一六年一二月一日 至一二月八日	同右	マキン派遣隊 同右	同右	内南洋マーシャル群島方面航空基地警備警備地区の陣地構築エボン島望楼設置対空砲に海上見張対機襲待機対勤務に従事
同年一二月八日	同右	同右	同右	大東亞開戰
自昭和一六年一二月八日 至同一七年五月三一日	同右	同右	同右	内南洋マーシャル群島方面航空基地警備隊と敵機に対し勤務に従事し海上対空見張警戒を積行し潜水艦に対し航空機の管制に従事すると共にマーシャル群島防備警戒任務に従事シヤルに方面作戰諸部隊の補給並に港内整理船舶出入荷揚の整理に従事ギルバート方面攻略後マキン島に在りて治安維持並に航空基地警備に従事
自一一月二一日 至一二月二六日	同右	同右	同右	ギルバート方面攻略作戰に全期を通じ参加同地占領地域の治安維持並に航空基地警備に従事
	勲功甲			殊勲乙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

昭和一七年二月一日	同右	同右	同右	同右	敵飛行機ヤルートを襲撃し、地上砲火を以て攻撃し、再度際襲来し、敵の企図を放棄せしめ、環礁内ピンゲラツブヤルート島に不時着せしめ指揮官H、T、J、JOHNSON以下五名を捕虜とし、敵機を撃墜し、亦ギルバート方面敗退し、敵機の来襲なし、敵の再襲に備へ警戒に従事	殊勲乙	第五十一警備隊を第六十二警備隊に改編
同年二月二四日	同右	同右	同右	敵機動部隊及飛行機ウエーキ方面来襲に際し、航空部隊に協力する共に敵の来襲に備へ厳密なる対空対海上防備警戒に従事	勲功甲	
同年四月一〇日	第六十二警備隊	同右	同右	新司令千知波大佐の部下に属す		
同年自一月二五日至五月三一日	同右	部隊長中隊長代理	同右	「RYC」「RYD」攻略の爲陸戦隊編成兵器需品の整備進出準備作業に従事五月一日RY攻略目的を以て基地発第一次RY攻略に全期を通じ参加せり	勲功甲	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

同年自六月一日至八月一七日	同右	同右	同右
同年八月一七日			特少尉（一七、八、一七）
内南洋部隊マーシャル方面防備部隊航空基地警備隊としてマキンに在り敵艦飛行機撃滅海上對空警戒の見張警戒港内整理船舶出入立荷揚の管理整理に從事する共にマーシャルギルバート方面作戰諸部隊ギルバート方面の補給修理之等の作業援助治安維持航空基地警備隊立にパート方面占領地域の見張警戒他部隊の作戰に協力			マキン島來襲せる敵米國海兵隊と交戰戰死
勲功甲			殊勲乙
同右			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

要處理

CAR/eyt

6434 LS-Z Request for Information

Legal Section Jap Liaison; G-2 5 Mar 47

Request that on or by 19 March 1947 this section be furnished the following information:

1. What Japanese submarines arrived in YOKOSUKA on or about 8 October 1944 and the areas or bases from which they returned to YOKOSUKA.

2. The date of the arrival in YOKOSUKA of the submarine I-8 from PENANG after completion of the Indian Ocean operations and the date of her departure for her last patrol (when she was presumed to have been lost).

3. The number and names of prisoners-of-war taken off the submarine I-8 on her return to Japn and the locations of the camps to which these prisoners were taken.

C.A.R., Major, FA
Liaison Officer

Received: 6 Mar 4.15 p.m.
Shukan : TM
Copy : D of GA
RF

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

右功績（殊勲乙）に該當するものと認む

昭和十七年八月十七日

第六十二警備隊司令海軍大佐　千知波長次

海軍大臣　嶋田繁太郎　殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

呂一一三潜及呂一一五潜に関する件

一九四七年十二月二十三日附一四〇〇〇LS－2により要求のあつた首題の件は左の通である。

但し本報告は當時の關係者中一部生存者の記憶に基いて作製したものである。

、呂一一三潜及呂一一五潜は一九四五年一月頃まで第八潜水戦隊として「ペナン」に在つたが、當時米軍攻略部隊が「リンガエン」灣（Lingayen Gulf）に上陸を開始し非島方面に於ける戦況益々不利となつた爲、聯合艦隊命令によつて、兩艦は一月下旬先遣部隊指揮官（第六艦隊司令長官）の指揮下に編入され、非島方面に於ける作戦に參加することとなり、一月下旬頃「ペナン」を出港し非島西方海面に向つた。

但し「ペナン」出港の正確なる日附は不明である。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

二兩艦共一月末に沖縄北西方海面に進出し、作戦に参加した。そして呂一一五潜は二月初頃に既に沈没したものの如く消息不明となつた。（「ベナン」出港以來内地には到達しなかつた。）

呂一一三潜は二月初旬「ルソン」島北部の「バトリナオ」（Batulinao）より臺灣へ航空機搭乘員を輸送せしめる任務を新に指令され、二月初旬一旦高雄に入港し、「バトリナオ」に向つたが遂にそのまま消息不明となつた。

三呂一一三潜及呂一一五潜の所屬してゐた第八潜水戦隊は一九四五年二月二十日附で解隊された。そして兩艦は當時既に消息不明であつたが、第三十四潜水隊に編入された。

其の後沈没が確認されたので同年五月十日附を以て兩艦共艦籍より削除された。

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

「明一」要求後の作戦指導

別紙の通

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三、第一潜水隊指揮官の官、姓名、住所

期間	官	姓名	住所
自昭和一九年一月一日 至昭和一九年二月一日	大佐	今井 ヒロシ	一九四二年十一月十一日戦死
自一九四二年二月一日 至昭和一九年八月二十六日	大佐	今泉 キンロウ	東京都大田区田園調布一ノ一〇九
自一九四二年八月二十六日 至一九四三年二月十一日	大佐	太田 ノブノスケ	一九四三年二月十一日戦死
自一九四三年二月十一日 至昭和一九年三月下旬	中佐		
自一九四三年三月下旬 至昭和一九年九月下旬	大佐	鈴木 イワガミ エイジロウ	一九四四年二月二日戦死

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第一潜水艦乗組員の官、姓名、住所

期間	官姓名	住所
自明治四十二年一月末 至同年二月上旬	中佐 [illegible] [illegible] [illegible]	山口縣豊浦郡[illegible]町字佐[illegible]〇
自一九四二年二月上旬 至同年九月中旬	中佐 山田 [illegible]	一九四四年七月十二日戦死
自一九四二年九月中旬 至同年十二月中旬	中佐 大谷 [illegible] 敏	山口縣[illegible]郡[illegible]村[illegible]田
自一九四二年十二月中旬 至一九四三年三月中旬	中佐 [illegible] [illegible] 治	一九四四年十一月十八日戦死
自一九四三年三月中旬 至同年六月中旬	中佐 [illegible] [illegible] 志	一九四三年六月十一日戦死
自一九四三年六月中旬 至同年九月下旬	少佐 [illegible] [illegible] 洋	一九四三年十一月二十四日戦死

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

四、第一潜水艦隊名、艦船及廻

期間	艦名	隻数	備考
一九、四、一三年十二月 八日	115	5	乙(115)型二隻内(116)型一隻
一九、四、二年 二月 一日	116 118	5	内型三隻
一九、四、二年十二月 十五日	116 118 120 124 121	5	内型四隻 乙型一隻
一九、四、三年 四月 一日	116 120 124 121	4	内型三隻 乙型一隻
一九、四、三年 八月 一日	116 120 121	5	内型二隻 乙型一隻

五、作戦経過概

第一期（開戦）の準

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

大佐一等水雷の所属した駆逐艦の司令長官の官、姓名、住所

期間	官	姓名	住所
自昭和 年 月 日 至一九四二年三月一日	中佐	霜水光雄（シモミズ）	東京都世田谷区下馬町三ノ五〇
自一九四二年三月一日 至一九四三年六月一日	中佐	小松輝久（コマツテルヒサ）	東京都渋谷区宮益坂一〇二
自一九四三年六月一日 至昭和 年 月 日	中佐	高木武雄（タカギタケオ）	一九四四年七月八日戦死

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	2 1 4 3
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	別表　第1潜水隊の編制、作戦の概要、作戦区域、等

上記のとおり分割撮影したことを証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

作戦区域、等

作戦の概要	作戦区域	編制の変更	記事
戦時 特別攻撃隊の一艦として 甲標的(特殊潜航艇)による真珠湾攻撃 1942年1月には内地に帰着した。 は開戦時 真珠湾攻撃部隊の一部として作戦に参加し、12月中旬より北米 海上交通破壊戦に従事し 1942年1月中旬「クエゼリン」に帰着した。	布哇及北米西岸方面		第一潜水隊を編成した各潜水艦の型、飛行機搭載数及飛行機の型は次の通である。 (1) 115、117、121 乙型又は115型と稱し各潜水艦共「零式小型水上偵察機」各一機を搭載した。 (2) 116、118、120、124 丙型又は116型と稱し各潜水艦共飛行機の搭載装置を有しないが、甲標的の搭載施設は有してゐた。
1、120 共に 1942年2月初頭より 4月中旬まで 内地にて訓練に従事したる後 に進出した。 年 4月下旬より 8月上旬まで「マダガスカル」海峡方面に作戦し、5月31日「デゴスワレズ」 攻撃隊の一部として作戦し 爾後 海上交通破壊戦に従事した。 1942年8月中旬より12月中旬まで 内地にて修理整備 20は 1942年8月中旬より 10月末まで 内地にて修理整備 120は 11月上旬より 12月中旬まで「ガダルカナル」島近海に於て甲標的 艦船攻撃に従事した。	印度洋「マダガスカル」海峡方面 「ソロモン」群島方面	1942年2月1日 編隊戦時編制の改定によって第一潜水隊の編制は変更された。	
120、121、124は 1942年12月末より 1943年1月中旬まで「ガダルカナル」島に対する 作戦に従事した。 1月中旬より 2月下旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。 118、120、……「ガダルカナル」島撤収に際し「ソロモン」群島南方海面に於て 艦船攻撃 (118は 2月中旬「ソロモン」群島南方に於て消息不明となった。) ……濠洲東方海域にて海上交通破壊戦 4 ……「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦 3月上旬より 5月中旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。	「ソロモン」群島方面 「ソロモン」群島 濠洲東方海域 「ニューギニア」東部方面	1942年12月15日 編隊戦時編制の改定によって 121、124が編入された。	
		1943年4月1日 編隊戦時編	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

別表　第一潜水隊の編制、作戦の概要、作戦区域、等

時期	編制		作戦の概要	作戦区域	編制の変更
	艦名	隻数			
1941-12-8	115, 116, 117	3	(1) 116は開戦時 特別攻撃隊の一艦として甲標的(特殊潜航艇)による真珠湾攻撃に参加し、1942年1月には内地に帰着した。 (2) 115, 117は開戦時 真珠湾攻撃部隊の一部として作戦に参加し、12月中旬より北米西岸の海上交通破壊戦に従事し 1942年1月中旬「クェゼリン」に帰着した。	布哇及北米西岸方面	
1942-2-1	116, 118, 120	3	(1) 116, 118, 120 共に 1942年2月初頭より 4月中旬まで 内地にて訓練に従事したる後「ペナン」に進出した。 1942年 4月下旬より 8月上旬まで「マダガスカル」海峡方面に作戦し、5月31日「デゴスワレズ」特別攻撃隊の一部として作戦し 南洋海上交通破壊戦に従事した。 (2) 118は 1942年8月中旬より12月中旬まで 内地にて修理整備、 116, 120は 1942年8月中旬より 10月末まで 内地にて修理整備、 (3) 116, 120は 11月上旬より 12月中旬まで「ガダルカナル」島近海に於て甲標的による艦船攻撃に従事した。	印度洋「マダガスカル」海峡方面 「ソロモン」群島方面	1942年2月1日 艦隊戦時編制の改定によって第一潜水隊の編制は変更された。
1942-12-15	116, 118, 120, 121, 124	5	(1) 116, 118, 120, 121, 124は 1942年12月末より 1943年1月中旬まで「ガダルカナル」島に対する輸送作戦に従事した。 (2) 1943年1月中旬より 2月下旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。 ◎ 116, 118, 120 ------ 「ガダルカナル」島撤収に際し「ソロモン」群島南方海面に於て艦船攻撃 (118は 2月中旬「ソロモン」群島南方に於て消息不明となった。) ◎ 121 ---------- 濠洲東方海域にて海上交通破壊戦 ◎ 124 ---------- 「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦	「ソロモン」群島方面 「ソロモン」群島、濠洲東方海域、「ニューギニア」東部方面	1942年12月15日 艦隊戦時編制の改定によって121, 124が編入された。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

攻撃に従事した。	方面		(2) 116, 118, 120, 124 丙型又は116型と稱し各潜水艦搭飛行機の搭載装置を有しないが、甲標的の搭載艤設は有してゐた。
121, 124は 1942年12月末より1943年1月中旬まで「ガダルカナル」島に対する従事した。	「ソロモン」群島方面	1942年12月15日 艦隊戦時編制の改定によつて 121, 124が編入された。	
より2月下旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。 120 ……「ガダルカナル」島撤収に際し「ソロモン」群島南方海面に於て艦船攻撃 (118は2月中旬「ソロモン」群島南方に於て消息不明となつた。) ……濠洲東方海域にて海上交通破壊戦 ……「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦	「ソロモン」群島 濠洲東方海域 「ニューギニア」東部方面		
より5月中旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。 ……「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦 ……内地に於て修理整備	「ニューギニア」東部方面	1943年4月1日 艦隊戦時編制の改定によつて、118が第一潜水隊より削除された。	
より9月下旬までの間 各潜水艦は下記の通作戦した。 ……内地に於て修理整備 ……8月上旬まで内地に於て修理整備、爾後8月中旬より「ニューヘブライズ」諸島方面に作戦 (9月上旬「ニューヘブライズ」方面に於て消息不明となり11月中旬戦死を認定された。)	「ニューヘブライズ」諸島方面		
……8月上旬まで「アリューシャン」群島西部に於て作戦し爾後9月中旬まで内地に於て修理、9月中旬「トラック」に進出した。 ……6月上旬まで「アリューシャン」群島西部に於て作戦した。(6月上旬「アッツ」島近海に於て消息不明となり6月中旬戦死と認定された。)	「アリューシャン」群島西部方面	1943年8月1日 艦隊戦時編制の改定によつて 124が第一潜水隊より削除された。	
	なし	1943年9月25日 艦隊戦時編制の改定によつて第一潜水隊は解隊された。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

			による艦船攻撃に従事した。	方面	
1942-12-15	116 118 120 121 124	5	(1) 116, 118, 120, 121, 124 は 1942年12月末より 1943年1月中旬まで「ガダルカナル」島に対する輸送作戦に従事した。 (2) 1943年1月中旬より2月下旬までの間 各階水艦は下記の通作戦した。 ◎ 116, 118, 120 ------ 「ガダルカナル」島撤収に際し「ソロモン」群島南方海面に於て艦船攻撃 (118は2月中旬「ソロモン」群島南方に於て消息不明となった。) ◎ 121 ---------- 濠洲東方海域にて海上交通破壊戦 ◎ 124 ---------- 「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦	「ソロモン」群島方面 「ソロモン」群島 濠洲東方海域。「ニューギニア」東部方面	1942年12月15日 時編制の改定 121, 124 が
1943-4-1	116 120 121 124	4	(3) 1943年3月上旬より5月中旬までの間 各階水艦は下記の通作戦した。 ◎ 116, 120 ---------- 「ニューギニア」東部地区に対する輸送作戦 ◎ 121, 124 ---------- 内地に於て修理整備 (4) 1943年5月中旬より9月下旬までの間 各階水艦は下記の通作戦した。 ◎ 116 ---------- 内地に於て修理整備 ◎ 120 ---------- 8月上旬まで内地に於て修理整備、爾後8月中旬より「ニューヘブライズ」諸島方面に作戦 (9月上旬「ニューヘブライズ」方面に於て消息不明となり 11月中旬戦死と認定された。)	「ニューギニア」東部方面 「ニューヘブライズ」諸島方面	1943年4月1日 制の改定によ 第一階水隊
1943-8-1	116 120 121	3	◎ 121 ---------- 8月上旬まで「アリューシャン」群島西部に於て作戦し爾後9月中旬まで内地に於て修整、9月中旬「トラック」に進出した。 ◎ 124 ---------- 6月上旬まで「アリューシャン」群島西部に於て作戦した。(6月上旬「アッツ」島近海に於て消息不明となり 6月中旬戦死と認定された。)	「アリューシャン」群島西部方面	1943年8月1日 制の改定によ 第一階水隊 た。
1943-9-25	なし	なし	なし	なし	1943年9月25日 の改定によって 第 は解除さ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

「パナマ」運河攻撃に關する回答

一九四七年十二月三十日附「ロビンソン」大佐より要求のあつた首題に關する件は左の通である。

但し本報告は當時の關係者の記憶に基いて調製したものであつて數的事項は資料喪失のため稍不明確の點あるをまぬがれない。

「「パナマ」運河攻撃に關する着想と其の放棄の經緯について

(一)日米開戰後我軍の戰勢不利となつた頃米軍の進攻速度を遲延せしめ防備充實の時間を得ることに焦慮した結果、「パナマ」運河を破壞し或はその使用を制限せしめんとする着想が海軍の極めて一部に生起したが、それは一九四四年頃まで殆んど空想に近かつた。

(二)この着想とは關聯なく、水上攻撃機を搭載する大型潛水艦の建造が計畫され(從來の潛水艦は偵察機のみしか搭載し得なかつた。)一九四三年一月その第一艦(伊四〇〇潛)が起工され、翌一九四四年十二月

海軍

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

末同艦が竣工し、引續き一九四五年初頭までの間に第二艦（伊四〇一潜）が就役し又水上攻撃機を搭載可能なる如く改造した伊一三潜も完成して訓練を開始するに及んで、之等潜水艦と其の搭載機を以て「パナマ」運河を攻撃せんとする具体的研究が潜水艦關係者の間に於て個人的に開始された。

(三) 之等潜水艦に搭載の豫定であつた水上攻撃機（名稱晴嵐）は製造が遲々として進まなかつたが一九四五年三月頃より使用可能のもの四機程度となつたので第六三一航空隊で其の初歩飛行訓練が開始された。

(四) 一九四五年四月頃より第一潜水隊（伊四〇〇潜、伊四〇一潜、伊一三潜、伊一四潜）を中心として「パナマ」運河攻撃作戦の研究は本格的に研究を開始され、その攻撃力たる晴嵐機の訓練も初歩訓練より逐次高度のものに移つた。

そして各潜水艦も潜水艦自体の訓練の外飛行機との協同訓練を實施するに至つた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(五)第一潜水隊を中心とする「パナマ」運河攻撃に關する研究は五月初旬頃一應の成案を見るに至り、その作戰構想の概略が第六艦隊司令部經由聯合艦隊司令部に上申された。

そして聯合艦隊に於ては當時の戰況と睨み合せ更に研究の結果、「パナマ」運河攻撃作戰は其の時機適當でないと判斷し其の實施を見合せることとなつた。

その主なる理由は左の通であつた。

(イ)攻撃は八月下旬以後と豫想されたが、この攻撃時機は當時の戰況に鑑み遲きに過ぎ假令攻撃成功するも其の效果が直接戰況に影響する處は極めて僅少であつて、當時の始く敵機動部隊が我本土周邊に於て猛威を振ひつつある狀況に於ては敵機動部隊の殲滅が第一である

(ロ)第一潜水隊各艦を「パナマ」方面に派遣する場合所要燃料は膨大であつて、當時我國内にあつた潜水艦用燃料は極度に逼迫してゐた爲本作戰を實施する場合には他の潜水艦は行動不能となる虞があつた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ハ)「パナマ」運河攻撃の場合よりも前進基地在泊中の敵航空母艦群を攻撃する場合の方が其の成果に確實性があると判斷された。

(ホ)以上の結論によつて一九四五年五月中旬頃以後第一潛水隊の「パナマ」運河攻撃の企圖は取止められ、内南洋方面所在機動部隊の攻撃に指向されることとなつた。

ニ「パナマ」運河攻撃作戰を研究した一九四五年五月頃に於ける關係指揮官は左の通である。

指揮官	氏名	記事
聯合艦隊司令長官	豐田副武	
第六艦隊司令長官	三輪茂義	五月十日以前
	醍醐忠重	五月十日以後
第一潛水隊司令兼第六三一空司令	有泉龍之助	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三「パナマ」運河攻撃作戦に關する作戰計畫、作戰命令等は發令せられたものも、決定したものもなかつたが第一潛水隊に於て研究されたその作戰の構想としては左の如きものであつた。

(イ)參加兵力及攻撃兵器

兵力		攻撃兵器
潛水艦	飛行機	
伊四〇〇潛	晴嵐 三機	各飛行機は八〇〇瓩爆彈一個を裝備し特別攻撃（体當り攻撃）を實施する
伊四〇一潛	同 右	
伊一三潛	晴嵐 二機	
伊一四潛	同 右	

(ロ)攻撃時機

可及的速なる時機に行ふこととし準備の都合上攻撃期日は一九四五年八月下旬又は九月下旬の月明期とし、攻撃時刻は黎明時を選定する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ハ)攻撃目標

「ガツン、ロツク」（Gatun Lock）最上段閘門の閘扉とする。（但し往復式複線航路の何れかの航路に集中する。）

(ニ)飛行機發進地點及攻撃要領

「パナマ」港より約一五〇浬乃至二〇〇浬離隔した「パナマ」海灣（Gulf of Panama）の適宜の地點より飛行機を發進する。

飛行機は集合の上隠密に大西洋岸に進出し「コロン」（Colon）方面より「ガツン・ロツク」に進入する。

（終）

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

史實班

ＩＰＳから左の調査要求があったので至急調査ス可シ。

六三一空及第一潜水隊に付左記事項

人事部
史實班

記

一、一九四一年乃至一九四五年の作戦記録の概要　右付先
二、仝　期間の指揮官の官姓名住所
三、仝　期間の副長又は次席指揮官の官姓名住所
四、潜水艦名、隻数、型及飛行機数、型、
五、一九四一年乃至一九四五年の作戦区域
六、六三一空及第一潜水隊の所属した艦隊の司令長官の官姓名住所

（終）

人事部
史實班
総務課
文書課
軍政班

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一、第一潜水隊及六三一空の作戦概要

(イ)第一潜水隊は一九四四年十二月三十日に伊一三潜及伊四〇〇潜（共に同年十二月竣工）を以て編成された。そして翌年一月八日に伊四〇一潜が、三月十四日に伊一四潜が編入され、更に七月二十四日伊四〇二潜が編入され、爾後終戦時迄右の五隻を以て編成されたが、伊一三潜のみは八月上旬既に作戦行動中消息不明となつた。

(ロ)伊四〇二潜を除く第一潜水隊各潜水艦は竣工後一九四五年五月上旬迄内海西部方面にあつて訓練に従事したが、五月中旬以後七月迄は日本海穴水灣に移動して同方面にて訓練に従事した。

この間伊四〇〇潜及伊四〇一潜は四月末乃至五月上旬頃各一回大

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

連に回航し作戦用燃料の補給を行つた。

(ハ)伊一三潛及伊一四潛は七月上旬舞鶴發、大湊を經由して内南洋「トラック」に對し陸上偵察機（彩雲）二機宛を搭載し輸送に從事した。

伊一四潛は輸送に成功し八月上旬「トラック」着、終戰時迄同地にあつたが、伊一三潛は本行動中消息不明となつた。

(ニ)伊四〇〇潛及伊四〇一潛は、八月下旬内南洋方面在泊の米機動部隊攻撃の目的を以て、七月中旬舞鶴發、大湊を經由して作戰地に向つた。

そして八月一七日終戰を知り横須賀に歸着した。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ホ)伊四〇二潛は竣工後內地にあつて訓練中終戰となつた。

(ヘ)六三一空は潛水艦用水上偵察機（晴嵐）を以て編成する航空隊として一九四四年十二月十五日開隊され、晴嵐の生產に伴ひ概ね左の如く專ら基地にて訓練に從事した。

自一九四四年十二月中旬
至一九四五年一月上旬　鹿島空

自一九四五年一月中旬
至一九四五年三月上旬　吳空

自一九四五年三月上旬
至一九四五年四月上旬　屋代島

自一九四五年四月上旬
至終戰時　福山及七尾

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ト)一九四五年七月上旬頃より晴嵐は第一潜水隊各潜水艦に搭載可能となつたので、其の頃より潜水艦との聯合訓練に着手したが、實際の作戦に使用せんとしたものは七月中旬伊四〇〇潜及伊四〇一潜に搭載した晴嵐六機に過ぎなかつた。

そして之等六機は六三一空の一部として潜水艦との聯合作戦に参加したが、目的を果さずして終戦となり、伊四〇〇潜、伊四〇一潜と共に横須賀に歸着した。

二、第一潜水隊及六三一空の指揮官の官、姓名、住所

第一潜水隊司令　大佐　有泉龍之助　死亡

兼六三一空司令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三、第一潛水隊及六三一空の副長又は次席指揮官の官、姓名、住所

(イ)第一潛水隊次席指揮官

伊　潛艦長

(ロ)六三一空次席指揮官

少佐　福永正義

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

四 潜水艦名、隻數、型及飛行機數、型

(イ) 第一潜水隊

隊名	艦名	隻數	型	搭載飛行機型	同上機數
第一潜水隊	イ13 イ14	2	伊13型	晴嵐	各艦二機
	イ400 イ401 イ402	3	伊400型（潜特）	晴嵐	各艦三機

(ロ) 六三一空

隊名	編成機數	終戰時所有機數
六三一空	晴嵐 三十二機（終戰時）	晴嵐 十二機（潜水艦搭載六機を含む）
		零式三座水偵 四機

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

五、作戰區域

第一項既述の通である。

六、第一潛水隊及六三一空の所屬した艦隊の司令長官の官、姓名、住所

第六艦隊司令長官　中將　醍醐忠重

（終）

海軍

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一、第一潛水隊及六三一空の作戰概要

(イ)第一潛水隊は一九四四年十二月三十日に伊一三潛及伊四〇〇潛（共に同年十二月竣工）を以て編成された。そして翌年一月八日に伊四〇一潛が、三月十四日に伊一四潛が編入され、更に七月二十四日伊四〇二潛が編入され、爾後終戰時迄右の五隻を以て編成されたが、伊一三潛のみは八月上旬既に作戰行動中消息不明となつた。

(ロ)伊四〇二潛を除く第一潛水隊各潛水艦は竣工後一九四五年五月上旬迄内海西部方面にあつて訓練に從事したが、五月中旬以後七月迄は日本海穴水灣に移動して同方面にて訓練に從事した。

この間伊四〇〇潛及伊四〇一潛は四月末乃至五月上旬頃各一回大

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

連に回航し作戦用燃料の補給を行つた。

(ハ)伊一三潛及伊一四潛は七月上旬舞鶴發、大湊を經由して内南洋「トラツク」に對し陸上偵察機（彩雲）二機宛を搭載し輸送に從事した。

伊一四潛は輸送に成功し八月上旬「トラツク」着、終戦時迄同地にあつたが、伊一三潛は本行動中消息不明となつた。

(ニ)伊四〇〇潛及伊四〇一潛は、八月下旬内南洋方面在泊の米機動部隊攻撃の目的を以て、七月中旬舞鶴發、大湊を經由して作戦地に向つた。

そして八月一七日終戦を知り横須賀に歸着した。

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ホ)伊四〇二潛は竣工後内地にあつて訓練中終戰となつた。

(ヘ)六三一空は潛水艦用水上偵察機（晴嵐）を以て編成する航空隊として一九四四年十二月十五日開隊され、晴嵐の生産に伴ひ概ね左の如く專ら基地にて訓練に從事した。

自一九四四年十二月中旬 至一九四五年一月上旬	鹿島空	
自一九四五年一月中旬 至一九四五年三月上旬	吳空	
自一九四五年三月上旬 至一九四五年四月上旬	屋代島	
自一九四五年四月上旬 至終戰時	福山及七尾	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ト)一九四五年七月上旬頃より晴嵐は第一潜水隊各潜水艦に搭載可能となつたので、其の頃より潜水艦との聯合訓練に着手したが、實際の作戰に使用せんとしたものは七月中旬伊四〇〇潜及伊四〇一潜に搭載した晴嵐六機に過ぎなかつた。

そして之等六機は六三一空の一部として潜水艦との聯合作戰に參加したが、目的を果さずして終戰となり、伊四〇〇潜、伊四〇一潜と共に横須賀に歸着した。

二、第一潜水隊及六三一空の指揮官の官、姓名、住所

第一潜水隊司令　大佐　有泉龍之助　死亡

兼六三一空司令

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三 第一潛水隊及六三一空の副長又は次席指揮官の官、姓名、住所

(イ) 第一潛水隊次席指揮官

伊　潛艦長

(ロ) 六三一空次席指揮官

少佐　福永正義

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

四 潜水艦名、隻數、型及飛行機數、型

(イ) 第一潜水隊

隊名	艦名	隻數	型	搭載飛行機型	同上機數
第一潜水隊	イ13 イ14	2	イ号3型	晴嵐	各艦二機
	イ400 イ401 イ402	3	イ号400型（潜特）	晴嵐	各艦三機

(ロ) 六三一空

隊名	編成機數		終戰時所有機數
六三一空	晴嵐 三十二機（終戰時）	晴嵐	十二機（潜水艦搭載六機を含む）
		零式三座水偵	四機

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

共作戰區域

第一項既述の通である。

六、第一潛水隊及六三一空の所屬した艦隊の司令長官の官、姓名、住所

第六艦隊司令長官　中將　醍醐忠重

（終）

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一九四七ー七ー二

照會

一九四二ー二ー一ー〇五〇〇 Manila灣口 Hamilo Pt. Limit Pt.
間距岸五浬ノ地點ニ於テ日本潛水艦ヲ爆雷ニヨリ撃沈セリト米側ハ判
斷シアリ
コノ海面ニテ當時消息不明トナツタ日本潛水艦ノ記錄アリヤ

回答

(一)日本潛水艦ニシテ一九四二年一月上旬ヨリ二月下旬迄ノ間ニ消息不
明トナツタ潛水艦ハ三隻デアツテ二隻ハ布哇方面一隻ハ「ボート・
ダアーウイン」沖ニテ沈沒セルモノト推定セル記錄アリ
(二)一九四二年一月中旬以降二月ニ亘リ日本潛水艦ニシテ非島方面ニ行

史實調査部

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

動シタモノハナイト思ハレル。

本件ハ記錄不充分ノタメ確實ヲ缺クガ當時ノ關係者ニシテ生存者ノ記憶ニヨルモノナルコトヲ附言スル。

（終）

史實調査部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

大至急 三角

一九四七一七一二　ニミツイチ

連絡部　機部事務官ヨリ連絡

照会

一九四二一二一一〇五〇〇 Manila 湾口 Hamilo Pt. Limit Pt. 間距離五哩ノ地点ニ於テ日本潜水艦ヲ爆雷ニヨリ撃沈セリト米側ハ判断シアリ

コノ海面ニテ当時消息不明トナリタル日本潜水艦ノ記録アリヤ

回答

（七一三　電話ニテ連絡ズミ）

（一）日本潜水艦ニテ一九四二年一月上旬ヨリ二月下旬迄ノ間ニ消息不明トナリタル潜水艦ハ三隻デアリテ二隻ハ布哇方面ニ隻ハポートダーウィン沖ニテ撃沒セラレタト推定ス記録アリ

第二復員省

1686

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(二)

一九四三年一月[illegible]二月ニ亘リ日本陸小艦ニテ蒲島方面ニ行動シタモノハナイト思ハレル。

本件ハ記録不充分ノ為確實ヲ缺ク

當時ノ関係者ニテ生存者ノ記憶ニ基モノナル

旨附言ス

第二復員省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

二復連発六一四号

昭和二十二年三月十三日

第三復員局連絡部長

終戦連絡中央事務局総務部長殿

伊一〇号潜水艦の件

一九四七年三月十日附六六三三LS-IZでリーガル、セクションより報告のあった標題の件に関する調査の結果別紙の通りである。

（終）

（別紙 日本文及英文各一部）

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

（別紙）

一、三個目の印度洋巡航の期間は「[illegible]」に記載されたものの内「九四三年九月二日から同十月三十日迄」が正しくて「[illegible]」の「[illegible]」に記載の「九四三年十月二日發」はミス、プリントである。

二、魚雷で貨物船を沈めた件の第一回の日附は「[illegible]」に記載の「[illegible]」はミスプリントで「[illegible]」に記載の通り「[illegible]」である。

三、ペリム島飛行場を偵察した日附及「[illegible]」と「[illegible]」は[illegible]に魚雷で貨物船を沈めた場所に関しては（10ページ）の報告が同艦生存者の記憶を綜合作成したものであるから或は若干相違あるかも知れないが右報告を改訂すべき根據は現在なし。

（終）

海軍

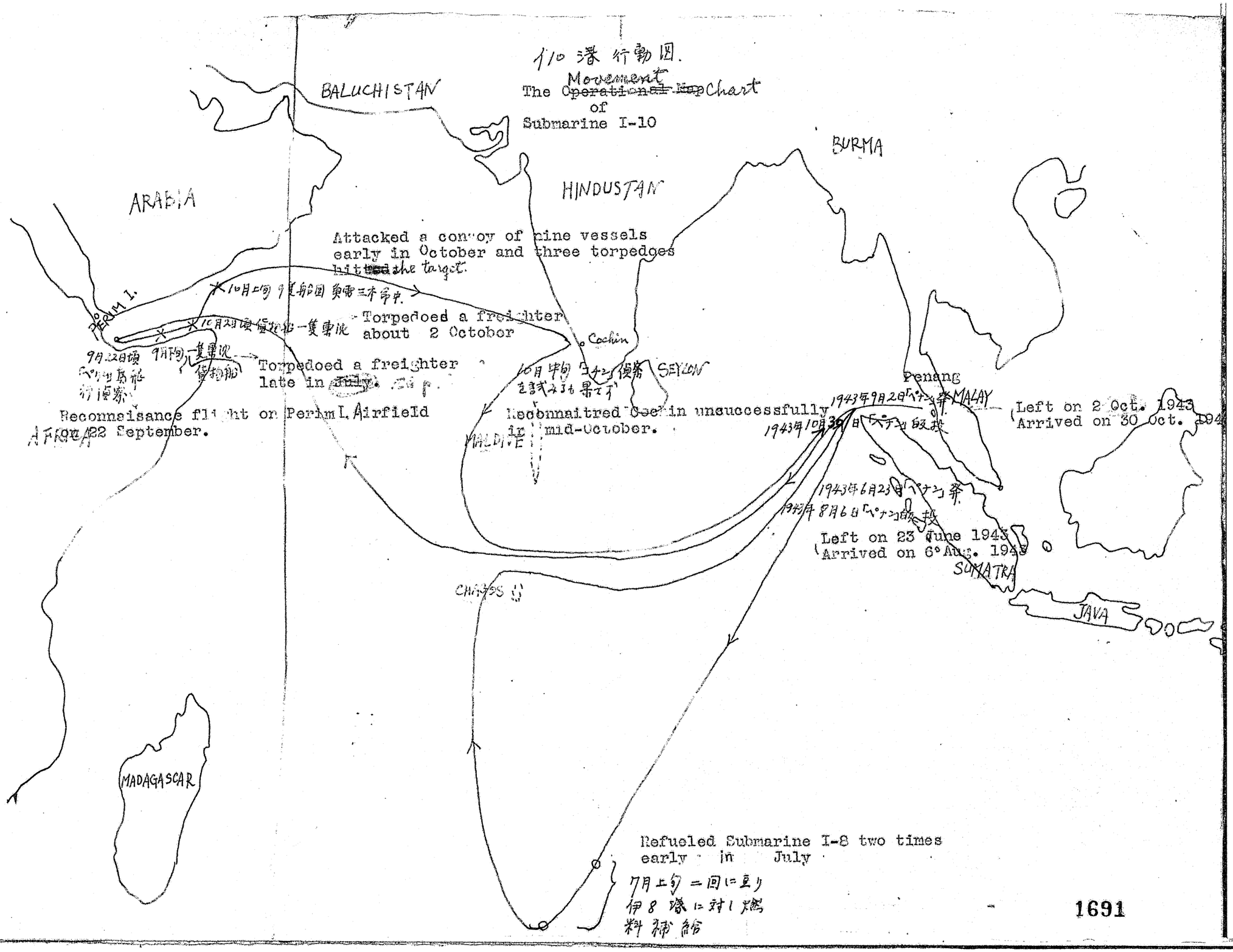
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

1. With regard to the second operation period ~~of operation~~ in the Indian Ocean, that given in the attached table, namely, from September 2, 1943 to October 30, 1943 is accurate, the date of departure of October 2, 1943 as shown in "The Movement Chart of Submarine I-10" being a typographical error of September 2.

2. With regard to the date of the first sinking of a freighter by torpedo, that given as late in July in "The Movement Chart of Submarine I-10" is a typographical error and should have been late in September, 1943 as shown in attached table.

3. With regard to the date of the reconnoitering flight over Perim Island and the spots of sirking a freighter by torpedo late in July (but this should be corrected as late in September as mentioned in para. 2 above) and October 2 respectively, there may be slight discrepancies as our report, CIO 5453 (PM), is based on the general memory of the survivors of that submarine but at the present we have no basis for altering that report.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

二復連第一七二號

昭和二十一年十月十四日

第二復員局連絡部長

終戦連絡中央事務局
総務部長　殿

伊一〇潜水艦の行動に関する件回答

昭和二十一年九月三十日附「リーガル・セクション」三二六L S I 号に依り照会のあつた首題の件に関しては別紙の通り回答ある度

（別紙略）

（終）

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

（別　紙）

一、伊一〇潜の印度洋に於ける行動概要及別紙の通り

二、本報告は一九四五年十二月六日附SPM第四〇號と同都に關係記錄並に規矢した爲同艦生存者の記憶を綜合作成したものであるから正確を期し難い點もあるから了承あり度い

三、一九四五年十二月六日附SPM第四〇號は一九四三年末から一九四四年八月迄の期間印度洋方面に作戰した帝國潜水艦に就て作成したもので伊一〇潜水は一九四三年十二月七日「シンガポール」後内地に歸還しその期間印度洋方面を作戰行動したとそ無かつたので同国潜に記載せられてゐない次第である

（終）

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

要点

伊藤博文関係　二十一年十月十日附報告

同氏を知る者の記憶を綜合し数点の誤りあるべし

期日等に若干誤りあるべし　現在

整理中の報告を改訂すべき根據はない

横濱文藝堂印行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan